

分会情報

J R 東海 新幹線 関西 地本 大阪修繕車両所 分会

No. 12 2009. 10. 25.

発行責任者 坂東 貞男

編集責任者 教 宣 部

「台車交換作業の体制見直し」 の業務委員会を開催するが…？

10月21日、JR東海 新幹線 関西 地本は関西支社と「台車検査に伴う台車交換作業の体制見直し」の業務委員会を開催しました。

12月7日から台車交換作業の体制見直し＝外注化が実施されるため、今回の業務委員会では具体的な回答がされるものと考えられましたが、会社は抽象的な回答に終始し、真摯に回答しているとは思えないものでした。(裏面以降の関西業務ニュース参照)

たとえば、私たちの『今回の「台車検査に伴う台車交換作業の体制見直し」についての説明会、また教育に要する日数・教育時間、及び対象者、実施日を明らかにすること。』という具体的な回答を求めた質問に対して、会社は『対象となる直営社員には、教育を行う前に説明し、10月中旬よりおおむね2ヶ月の間に机上および実務で教育する』と回答しました。こんな回答では具体的なことは何もわかりません。

現場では、業務委員会の前に協力会社社員の見習いが始まっています。また、仕業検査車両所 新大阪支所の社員の見習いも始まっています。

つまり、もう教育が始まっているのであり、具体的な教育計画が無ければ見習いが始まるはずがありません。

皆さん！この具体的なことは何ら明らかにしようとしめない会社をどう思われるでしょうか？
何か具体的なことを回答できない理由があるのでしょうか？

受取り検査(合いマーク確認)は30分程度 新幹線電車の安全は本当に大丈夫か？！

10月8日の台交担当者の終了点呼で、管理者は「外注先社員の見習いは、直営社員を教えるのと同じように教えてください。」とだけ説明し、台交担当者が管理者に具体的にどのように変わるのかと質問しても「わからない。」と答えています。これが現場での現状です。

今回の業務委員会の回答や現場管理者の対応では、現場のことや社員のことを置き去りにし、実施期日だけが先行していると思えません。

また、会社は「台車交換作業は、重要な作業であるとの認識を変えるものではない。従って直営社員が最終確認を行うことは現在と変わらない。」と回答しています。

その最終確認が受取り検査＝合いマーク確認ということになるのですが、会社は『受取り検査については、30分程度である』と回答しています。

今更言うまでもなく台車交換作業は、一重系の台車を新幹線電車に装着するという安全面にとって大変重要な作業ですが、最終確認が合いマーク確認だけで、しかも30分程度で本当に大丈夫なのでしょうか、安全が守れるのでしょうか？

JR東海 大阪修繕車両所 分会は、新幹線電車と社員の安全を

守るために今後も言うべきことはしっかりとっていきます！！